

⑤ ワークショップ

< 概要 >

次のとおりワークショップを実施しました。

開催日

令和7年7月25日

対 象

長崎市立長崎商業高等学校

参加人数

26人

ワークショップの内容

「将来こんな過ごし方ができるまちに住みたい」「長崎でこんな過ごし方をしてみたい」など、将来の長崎市に期待するご意見をいただくため、次のとおりワークショップを実施しました。

- ① 班ごとに人物設定（例）私は「都心部」に暮らす「大学生（経済学部）」です
- ② 平休日別に、将来の長崎での過ごし方、こんな風になってほしいなどを付箋に書き出し
- ③ ②で出した意見を基に、班として、将来の理想の過ごし方をまとめる
- ④ 各班まとめた過ごし方を発表

ワークショップの様子



< ワークショップの結果（概要） > 以下内容は、各班のワークショップの結果を踏まえ、長崎市で取りまとめたものです。

● 都心部と周辺部間の移動や移動の快適性に関するご意見

- ・ 地下鉄で長崎全域の移動を楽しむ
- ・ 15時に子どもと帰宅（ロープウェイで迎えに行く）
- ・ 全自動のリムジンで移動し、移動中に読書する
- ・ 移動はシェアモビリティ（キックボード）
- ・ モノレールで移動する（上空なので移動がスムーズ）
- ・ アプリでタクシーを呼ぶ
- ・ バスは無人運転で、便数は5分に1本
- ・ 公共交通機関の路線が増えて、周りの景色をゆっくり楽しみながら通勤・通学

● 自然を感じるライフスタイルに関するご意見

- ・ 海の上の遊園地で遊ぶ（海上アスレチック、海上ジェットコースター）
- ・ 魚釣りもできる海水浴場で夏を満喫
- ・ 伊王島の斜面地に住み、自転車での海をサイクリングなど
- ・ 田舎に住む大学生で農業を経営

● 空き家や古民家の活用に関するご意見

- ・ 海の近くの古民家を改装した定食屋（地元の食材使用）に空飛ぶ鉄道で移動
- ・ ランチは大学近くの古民家カフェで友達と食べる
- ・ 空き家を再利用したカフェでバイト
- ・ 長崎の夜景が見える古民家高級ホテルに宿泊

● デジタル技術の活用に関するご意見

- ・ スーパーからドローンで食材が届く
- ・ 24時間開いているスーパー（無人）に、食材を会に行く
- ・ 全自動のリムジンで移動
- ・ バスは無人運転